

「世界宣教とやもめの祈り」一癒しの証しー多摩川キリスト教会牧師 末盛桜子

2022.08.27

ハレルヤ 私たちの救い主、癒し主であられる主の御名を心から賛美します。
今回、このような機会を与えてくださり、主の素晴らしい癒しの御業、現在、多摩川教会に注がれている世界宣教の祝福の証しをさせていただきますことを、唯々、勿体なく感謝いたします。始めに、今日まで私の病の癒しを覚えて、熱き祈りと励ましをお送りくださった東京地方連合に属する諸教会の皆様に、心より心より感謝を申し上げます。

私は 2018 年に乳がんが見つかり全摘出手術をし、翌年、2019 年に関節リウマチを発症しました。当時、数値があまりにも高くお医者様には、「手遅れになる前に早く投薬を始めましょう。でも、今までの生活ができるようになるとは、思わないでください。」と、言われました。それからの 3 年間は、大量の痛み止めを飲んでも効果はなく、激しい痛みと倦怠感に肉体も心も牢獄に投げ込まれてしまったようでした。日に日に、自分の身体が他の別の物に支配されて行く感覚でした。それでも、休むことなく講壇に立ち続けることが許されたのは、主の憐れみと、絶え間ない教会の涙の祈りと忍耐があったからです。「まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。(ルカ 18:7)」2018 年に乳がんが発覚したときから、教会では牧師の癒しを求めて初めて 40 日連続聖別祈祷会が捧げられるようになりました。毎晩、信徒の方々が奨励をし、祈りを導かれました。朝には早天祈祷会が捧げられておりますので、御言葉の通りやもめである教会は昼も夜も断食を伴う祈りをもって、主に必死で叫び求めました。翌年に私がリウマチを発症してからも、特伝、聖会と特別な集会のために捧げられる 40 日連続聖別祈祷会には、毎回「桜子先生の完全なるリウマチからの解放」と、「イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならない (ルカ 18:1)」聖霊の熱き執り成しにより、失望せず、あきらめない教会の涙の祈りが捧げられました。

けれども、教会、個々人に襲ってくる現実は厳しく、愛する者たちの病の癒し、救い、そして世界宣教とリバイバルの使命成就のために、更なる祈りの必要性を主は私に迫られました。「夜を徹して祈りなさい」との聖霊の導きにより、2022 年 5 月 13 日 (金) の晩から次の日の早天祈祷会まで徹夜祈祷会が捧げられました。その中で、主は私を取り扱い、御言葉をもって明確な癒しをお与えくださいました。今日までの牧会の歩みを主の御前に振り返りながら、内から悔い改めの祈りが湧いてきました。自分の罪を主に告白し、主の赦しを乞い求め、とめどなく涙が溢れました。その時、「私はあなたを癒した。」、「自分の足でまっすぐな道を歩きなさい。(ヘブライ 12:13)」との御声を聞きました。どこの聖書箇所だったかと急いで聖書を開きました。その瞬間、肉体のみならず、病によって暗闇に覆われていた私の心の重荷がスッと完全に取り去られて行くのを内に感じました。そして、「あっ私は癒された」と、確信しました。その場で立ち上がり、皆さんの祈りが捧げられている中、礼拝堂を歩きました。それから、一切車椅子を使うことなく、スタスタと歩いています。

主はご自身の光で私の暗闇を完全に照らしてくださり、霊肉に病からの解放を与えてくださいました。「光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。(ヨハネ 1:5)」、
「神は光であり、神には闇が全くない (I ヨハネ 1:5)」今では、「スタスタ先生」と呼ばれるほどです！主は生きておられます。陰府の力も対抗できない教会の祈りによって、主はご自身の栄光を現わしてくださり、教会に信仰を与え、日毎に祈りを励ましてくださっておられます。現在も二週間に一度、リバイバル徹夜祈祷会が捧げられています。

そして、同時に二組目の宣教師として派遣を祈り続けてきました、また、皆様にもお祈りに覚えていただいております久米麗宣教師補のインドネシア宣教、野口先生ご家族のお子様たちのための教育宣教師としての働きが開かれ、来週には出発されます。「それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。

— 信じる者には次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る。手で蛇をつかみ、また、毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば治る。」「一方、弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。主は彼らと共に働き、彼らの語る言葉が真実であることを、それに伴うしるしによってはっきりとお示しになった。(マルコ 16:15)」、「主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語るようにしてください。どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。(使徒 4:29、30)」大宣教命令、教会の宣教に伴う「しるし」としてこの出来事が、私の個人的な事柄ではなく、教会の世界宣教の業としての祝福であることを信じております。

「すべてのものを生き返らせる (エゼキエル 47:9)」イエス・キリストの十字架と復活の贖いの命、永遠の命の水、聖霊の力が愛する者たちに、日本の諸教会、そして世界に流れて行きますように、更に祈り求めて行きたいと願います。重ねて、このような形ではありますが、共にお祈りくださった皆様に心から感謝をお伝えすると共に、主に全ての栄光をお返しいたします。